# 令 和 4 年 度　学 校 自 己 評 価 報 告 書

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | ○勤労と勉学に励み、真理と平和を愛し、実践力のある人間を育成する。<br>○豊かな知性と情操を養い、心身ともに健康で、調和のとれた人間を育成する。<br>○広い世界観に立ち、親和協調の気風を養い、豊かな社会の建設に貢献しうる人間を育成する。 |
| 本年度の重点目標 | ○生徒の基礎的な学力を伸ばすべく、主体的な授業の中で学びの質を高める授業実践を目指し、授業改善を進める。<br>○落ち着いた授業習慣の定着を支援するとともに、生徒会を中心に委員会と連携し、生徒主体の行事の企画・運営に努める。<br>○キャリア教育を通して生徒の自己実現を図るために必要な職業観を育成し、個々の生徒に応じた進路の実現を図る。<br>○学びやすい環境づくり及び組織的な教育相談体制づくりを進め、健康・安全や防災・減災に努める能力の育成を図る。 |

| | 短期経営目標 | 具体的な計画 | 評価項目・評価基準 | 最終達成状況 | 評定 | 改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>教務課 | 生徒が授業内容を振り返る場面を毎時設定し、その振り返りを教員がチェックすることで、生徒の学びの変化を把握し、評価の適正化や授業改善につなげる。 | 評価および授業改善の一環として、生徒が授業を振り返る場面を毎時間設定し、生徒の学びや生徒の変化を把握し、適正な評価へつなげる。 | ・授業アンケート　《まとめ・振り返りの設定》<br>教員<br>４年度：89.3%<br>３年度：データなし<br><br>評価基準：Ａ＝70%以上<br>Ｂ＝50%以上<br>Ｃ＝50%未満<br><br>・授業アンケート　《観点別評価の実践》<br>教員<br>４年度：92.9%<br>３年度：82.3%<br>２年度：データなし<br><br>評価基準：Ａ＝70%以上<br>Ｂ＝50%以上<br>Ｃ＝50%未満<br>※授業アンケート・学校評価アンケートの結果については、全回答における「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答割合を指す。以降同じ。 | 学校アンケートでも、「授業内での生徒の活動時間が設定され、単に説明を聞くだけの授業になっていない」と94%の生徒が回答している。授業アンケートの結果は自己評価であり、想定以上に高い数値であったが、授業スタイルの見直しは進んでいるものと考えられる。<br>一方、観点別評価については、生徒の約３割は「評価が分かりにくい部分がある」と回答しており、評価の提示方法や精度について、引き続き検討していくことが必要だろう。 | A | 評価の提示や精度について、教科を超えて検討していくきっかけづくりを進める。 |
| | 「授業スタンダード」や授業参観、校内外の公開授業を活用し、各教員が授業改善に向けた不断の取組を行う。 | ６月と１１月の公開授業週間ごとにテーマやスタイルを設定し、授業づくりの幅を広げるきっかけを、教務の側からしかける。 | 学校評価アンケート　《公開授業週間への取組》<br>教員<br>４年度：97%<br>３年度：92%<br><br>評価基準：Ａ＝85%以上<br>Ｂ＝70%以上<br>Ｃ＝70%未満 | 11月期では、６月期よりもさらに多くの授業参観が見られた。また、外部からも２名の参観者があった。設定した課題に対しても、前向きに取り組む教員も多く見られ、授業改善ならびに自身の授業展開の幅を広げるきっかけとなったのではないか。 | A | 基本的なスタイルを変えず、教員が参観しやすい環境を引き続き整えていく。課題の設定についても、適切なものが設定できるように努める。 |
| 2<br>生徒課 | (1)生徒の基本的生活習慣が定着し、規範意識を身につけることができるよう支援する。 | 生徒が、「1人1人の学ぶ権利を守る5箇条」に意識して授業に取り組むよう、全教員で統一して繰り返し指導を行い、規律ある落ち着いた雰囲気の学習環境を作る。 | 学校評価アンケート　《授業を大切に》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：94%　98%　96%<br>３年度：97%　97%　92%<br>２年度：96%　92%　91%<br><br>評価基準：Ａ＝95%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝85%未満 | 全体的に学校内の雰囲気は落ち着いており、生徒も落ち着いた学習環境の中で授業を受けられていた。アンケート結果からも、特に生徒たち自身の中に規範意識が備わってきたのではないかと考えられる。 | A | 今後も継続して指導を行う。<br>また、教員間で生徒の情報共有をしっかり行い、足並みを揃えた指導ができるよう報連相を徹底していく。 |
| | (2)各種委員会活動の活性化を図り、積極的な生徒指導の充実を図る。 | 生徒会を中心に、学校行事の企画・運営・振り返りを行い、行事内容の充実を図るとともに、各種委員会と協力し、活動内容のさらなる充実に努める。 | 学校評価アンケート<br>《学校行事・生徒会活動・部活動に積極的に参加》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：100%　98%　96%<br>３年度：100%　99%　94%<br>２年度：96%　95%　93%<br><br>評価基準：Ａ＝95%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝85%未満 | 今年度は複数の委員会で、新たな取り組みを行うなど、委員会活動の中で、生徒のさらなる活躍が見られた。また、体育祭や文化祭をはじめ、様々な行事に積極的に参加する生徒が増えた。 | A | 委員会活動の活性化により、生徒会以外の生徒も活躍する場が増えてきつつあるので、学年や他の課とも連携をしながら、さらに生徒がそれぞれの個性に応じた活躍ができる場・機会を増やしていきたい。 |

| | 短期経営目標 | 具体的な計画 | 評価項目・評価基準 | 最終達成状況 | 評定 | 改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ３<br>進路課 | (1)キャリア教育を充実させ、生徒の能力の伸長を図り、進路意識の向上を目指す。 | ①生徒の実態に合った進路行事と進路ＬＨＲを検討し、実践していくことで生徒の進路意識の向上を目指す。また進路課だよりやＨＰを通じて、生徒や保護者への適切な進路情報の提供を行う。 | ①学校評価アンケート　《キャリア教育の実践》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：100%　98%　99%<br>３年度：100%　97%　92%<br>２年度：100%　96%　97%<br><br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満 | ①新型コロナの影響で、一部中止となった行事もあるが、概ね予定通りに実施できた。評価アンケートの数値も高い。進路行事ごとに「振り返り」を行っており、自己評価も高い。今年度より生徒の実態を把握し内容の刷新を図った結果と言える。 | A | ①今後も継続して、生徒の実態を把握しそれに合った進路行事や総探を計画し実施していきたい。またＨＰや進路課だよりなどで情報発信を行っていきたい。 |
| | | ②各学期に進路希望調査を実施し、教員間で情報を共有すると共に、生徒一人ひとりの実態に即した進路指導に役立てる。 | ②進路希望調査による進路意識の推移を把握する。<br>進路希望未決定者数（割合）　（次年度卒業学年）<br>４年度：8/26(30.7%)<br>３年度：5/24(20.8%)<br>２年度：4/25(16%)<br><br>評価基準<br>Ａ：未定の生徒が20%未満<br>Ｂ：上記が20%以上40%未満<br>Ｃ：上記が40%以上 | ②例年よりも進路が未定の数字が多くなっている。生徒の進路希望も幅広く多岐に渡っており、生徒が自ら考えられるような、進路課からの情報発信も不足していると考えられる。 | B | ②進路希望調査を参考に、声掛けなどリアルタイムな指導・アドバイスをして進路意識が少しでも向上できるよう指導していきたい。 |
| | (2)就労体験や進路相談を通して、個々の生徒の実態に応じた進路指導による進路実現を目指す。 | ①アルバイトの推奨やインターンシップの働きかけを行い進路意識の向上に効果的に機能するよう工夫すると共に進路情報の共有を図る。 | ①学校評価アンケート<br>《進路指導の実践》《キャリア教育の実践》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：　97%　95%　97%<br>３年度：100%　91%　95%<br>２年度：100%　94%　91%<br><br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満<br><br>アルバイト調査とインターンシップの参加状況を把握する。<br><br>評価基準<br>Ａ：参加生徒が50%以上<br>Ｂ：上記が30%以上50%未満<br>Ｃ：上記が30%未満 | ○アルバイト実施状況<br>38名（40.4%）（３学期時点）<br>○インターンシップ参加者<br>夏15名（見学含む）<br>春15名予定　夏春のべ30名（31.9%）<br>○アルバイトとインターンシップへの参加状況 59.5%<br>①アルバイト実施者はコロナ禍の影響で減少傾向にあったが、だんだんと持ち直しつつある。ただアルバイトに至るまでの過程を負担に感じ、なかなか一歩を踏み出せない生徒もいた。今年度はアルバイト情報提供のため、掲示やファイルを置くなどした。<br>インターンシップ参加者も増えているが、コロナ禍の影響で中止や見学に変えるなどの対応を余儀なくされた。 | B | ①アルバイトやインターンシップは進路選択をする上で有効な手段と考え、今後も実施をしていきたい。なかなか一歩を踏み出せない生徒には、まずインターンシップに参加し、そこからアルバイトへつなげられるように働きかけを行っていきたい。 |
| | | ②卒業学年には、進路課と担任・学年主任による進路面談、全教員による面接指導を実施する。在校学年に対しては、学期ごとの担任面談及び個々の生徒の実態に応じた進路指導を実践する。 | ②進路決定率による状況を把握する。<br><br>評価基準（１２月末時点）<br>Ａ：90%以上<br>Ｂ：75%以上<br>Ｃ：75%未満<br><br>学校評価アンケート　《担任による面接、進路面談》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：　97%　95%　97%<br>３年度：100%　91%　95%<br>２年度：100%　94%　91%<br><br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満 | ②進路未決定者(次年度卒業学年)<br>４年度：8/26(30.7%)<br>進路決定者(今年度卒業学年)<br>４年度：21/24(88%)<br><br>年度当初に、卒業学年は進路課による進路面談を実施した。在校学年は各学期に担任面談を実施した。<br>卒業学年については、個々の生徒の実態に応じて保護者・学年団と連携して適宜対応し進路決定を促した。進路未定の生徒もいるので、卒業までに１人で多く進路を決定できるよう働きかけを行いたい。<br>在校学年の進路未決定者に関しても学年団・進路課で連携し、インターンシップへの参加を促すなど進路を考える機会を設けたい。 | B | ②担任・学年団・進路課が連携して1人でも多く進路決定者を増やせるよう努めたい。また進路を考える上で自らも考えられるよう、進路情報の提供、日頃からの声掛けなど働きかけを行っていきたい。 |

| | 短期経営目標 | 具体的な計画 | 評価項目・評価基準 | 最終達成状況 | 評定 | 改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ４<br>厚生課 | (1)健康・安全・防災に関する知識の啓発と生徒が主体的に健康で安全な生活を営む意識の向上と能力・態度の育成を図る。 | ①健康・安全及び防災に関して生徒や学校の実態に即した情報の提供を印刷物・掲示物・電子媒体によって行い、健康・安全に対する知識の啓発に取り組むとともに防災に対する意識の向上を図る。 | ①学校評価アンケート<br>《健康の増進と安全保持、防災・減災意識の向上》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：100%　92%　99%<br>３年度：100%　97%　96%<br>２年度：96%　92%　93%<br><br>評価基準：Ａ=90％以上<br>Ｂ=85％以上<br>Ｃ=85%未満 | ①定期的な「保健だより」の発行や保健室前の掲示物で情報発信を行い、コロナ対策、熱中症などの予防を呼び掛けた。保健委員会での外部講師を招いて調理実習を行えた。 | A | ①今後，コロナ禍後の健康、食事等の大切さを生徒に呼びかけたり、委員会活動で取り組みたい。 |
| | | ②生徒の心身の健康状態を的確に把握し、疾病治療の必要性を個に応じて懇談や紙、電子媒体によって知らせる。 | ②《疾病治療率》<br>眼科　歯科<br>4年度: 57.1%　17.2%<br>3年度: 62.5%　21.9%<br>2年度: 18.0%　4.3%<br><br>評価基準:Ａ＝70％以上<br>Ｂ＝50％以上<br>Ｃ＝50％未満 | ②疾病治療率は、コロナ禍での検診や治療率の向上はなかなか進んでいない状況である。できる限りの生徒の健康状況を把握していく。 | B | ②各学年団と協力したり、紙媒体での通知を進めていく。 |
| | (2)ユニバーサルデザインを基本とした教室整備を進めて、落ち着いて学習できる環境づくりに取り組む。また、効果的な相談支援・指導体制の確立を図る。 | ①ユニバーサルデザインの周知、広報を行い、ユニバーサルデザインに立脚した教室整備に取り組み、学習しやすい環境作りを行う。 | ①学校評価アンケート　《教室整備》<br>教員　生徒<br>４年度：100%　84%<br>３年度：97%　78%<br>２年度：96%　80%<br><br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満 | ①「厚生課だより」で教室のユニバーサルデザインの情報発信を行い、学習しやすい教室づくりを進めた。年間を通じて、各クラスの前面の掲示物は整理されているが、机の位置や、教室の後ろの掲示物は、乱雑なクラスもある。 | B | ①今後教室全体のユニバーサルデザインの周知を進め、学習しやすい環境を整える。 |
| | | ②教室の環境美化に係る重点目標を一定期間ごとに定めたり、ポスター作成や清掃ボランティアへの参加により生徒に実践を促す。 | ②学校評価アンケート　《環境美化意識》<br>教員　生徒<br>４年度：97%　94%<br>３年度：97%　90%<br>２年度：91%　92%<br><br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満 | ②環境美化の意識は大変高い状況が維持されている。美化委員会の清掃チェックを学期に２回実施し、その結果を「美化委員だより」で各クラスに周知して美化意識を呼びかけることができた。 | A | ②一部のクラスで、ごみの分別ができていなかったり、清掃の不十分なところも見られたこともある。今後も美化委員の活動として、清掃チェックや学校内の美化に関するアンケートなどを実施して、校内美化の意識向上に努める。 |
| | | ③印刷物や掲示物で情報の提供を行うと共に、配慮を要する生徒へのきめ細やかな教育相談・特別支援教育を推進し、ＳＣ、ＳＳＷ、教育相談員や外部機関と教職員間の連携をとり、相談支援や特別支援体制を確立する。 | ③学校評価アンケート　《特別支援》<br>教員　保護者　生徒<br>４年度：97%　88%　84%<br>３年度：97%　94%　87%<br>２年度：91%　91%　86%<br>評価基準：Ａ=90%以上<br>Ｂ=85%以上<br>Ｃ=85%未満 | ③教育相談、SCの利用は1年生が増加した。その中で、学年に相談係を決め、担当と密に連携が取れた。倉敷支援学校の特別支援コーディネーターが授業見学を実施した。また、ハイパーＱＵの教員研修を学年ごとに行い、生徒理解の一助とすることができた。 | B | ③教育相談やＳＣの活動をもっと身近にとらえる活動として、印刷物や掲示物を増やす。また、得た生徒情報を、授業改善への活用に図る。 |

| | 短期経営目標 | 具体的な計画 | 評価項目・評価基準 | 最終達成状況 | 評定 | 改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ５<br>年<br>団 | (1)学校生活や保護者・地域との連携の中で、生徒が役割を果たし活躍できる場面を通して、自己有用感を実感できるよう導く。 | (1年団)<br>学校行事などの校内の諸活動を通して、生徒自身の居場所を認識させる。保護者との連絡や生徒面談を密にし、生徒の生育環境や生徒の性格認知に努めることにより、生徒に合わせた役割を与える。 | (1年団)<br>学校評価アンケート　《保護者との連携》<br>４年度　88%<br>３年度　93%<br>２年度　93%<br><br>評価基準：Ａ＝90%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝85%未満 | 学校評価アンケートでは教職員の肯定的回答が100%である反面、保護者は88%にとどまり、認識の隔たりがある。特に1年団では入学年度ということもあり、生徒の実態把握のために密に連絡を行っていたが、生徒の学校生活の状況に伴い、連絡の頻度の差が生まれてしまったのも事実である。生徒自身については学校行事等の諸活動を通して個々の性格を認知することができた。 | B | 全生徒ともに同じように連絡をすることが一概に良いとは言えないが、生徒の学校での成長した部分や改善できた部分などの良いところでの連絡も必要である。来年度以降より保護者との連携が必要となる中で学校との連絡をポジティブにとらえられるような連携を取っていきたい。 |
| | | (2年団)<br>生徒面談を積極的に行い、保護者とも情報を共有することで生徒理解を深め、校内外の活動への参加を促し活躍できる場面を多く設定する。 | (2年団)<br>学校評価アンケート　《保護者との連携》<br>４年度　88%<br>３年度　93%<br>２年度　93%<br><br>評価基準：Ａ＝90%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝85%未満<br><br>ボランティアやインターンシップ参加者数<br>４年度参加率43%（延数）<br><br>評価基準：Ａ＝50%以上<br>Ｂ＝30%以上<br>Ｃ＝30%未満 | 学校評価アンケートでは生徒の肯定的回答が90%以上となっており、生徒が学校に対し信頼感をもって学校生活を送っていると考えられるが、保護者は88%となっている点で保護者が考える連携とずれがあると思われる。<br>学校行事や部活動では様々な場面で多くの生徒が中心となって活躍する姿がみられた。一方でインターンシップやボランティアへの参加率は延数で43%に留まっており積極的に動き出すことのできていない生徒もいる。 | B | 来年度は卒業学年に当たる生徒もいるため、保護者との綿密な情報共有がさらに必要になってくると考えられる。生徒の進路実現に向けて保護者の理解や協力を得られるよう、通信なども活用した情報発信や連携の取り方を工夫していきたい。<br>また、インターンシップ等への参加は特に進路に必要な生徒にはこれまで以上に個別の働きかけが必要だと考える。 |
| | | （３，４年団）<br>実践的・体験的な学習活動を通して、幅広く建設的な見方・考え方を持った豊かな人間性を育む。 | （３，４年団）<br>学校評価アンケート<br>《自分は役に立つ人間だと思う》<br>生徒<br>４年度　57%　(3年生70%)<br>３年度　55%　(2年生35%)<br>２年度　60%<br><br>評価基準：Ａ＝70%以上<br>Ｂ＝50%以上<br>Ｃ＝50%未満 | 学校行事の運営、部活動の大会などの活動の中で最上級生として学校を引っ張っていく様子が見られた。オープンキャンパス、応募前職場見学、面接練習、履歴書作成を体験し、自分自身と向き合いながら努力し成長する姿が見られた。進路活動を通して豊かな人間性を育んでいくことができた。こういった経験から、幅広い視野と新たな価値観を身に付け自信がつき、学校評価アンケートの中で《自分は役に立つ人間だと思う》の項目の回答が70%という高い数値に繋がっていったと思われる。卒業式を終え自信を持って新しい道に進む姿を見送れるよう導いていきたい。 | A | 卒業後の様子の報告を受け、振り返りを行う。 |
| | (2)学力、社会人基礎力の向上を目指し、自ら学び、探究し、主体的かつ協働的に取り組めるよう指導の充実を図る。 | (1年団)<br>基本的生活習慣の確立を目指し、さまざまな教育活動を通して社会性を育む。また科目「わかたけ」を活用し、社会人基礎力の土台となる基礎学力・一般常識を身につけさせる。 | (１年団)<br>学校評価アンケート　《生徒の社会に適応する力》<br>教員　保護者<br>４年度：94%　97%<br>３年度：92%　89%<br>２年度：74%　87%<br><br>評価基準：Ａ＝90%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝80%未満 | 学校評価アンケートの結果では教職員・保護者・生徒三者ともに肯定的意見が95%前後であり、高校という社会への準備段階で生徒の成長を実感できているのだと感じた。特に中学時代には長期欠席傾向であった生徒が複数名飛躍的に欠席日数が減少し、基本的生活習慣の確立がなされ始めているのがアンケート結果の向上の要因だと考えられる。 | A | 学年が上がるごとにスモールステップでよりレベルの高い学力の定着を求めるとともに、3、4年間の高校生活を通じて自己の理解と周囲との協力の視点に立った教育活動を継続していく。また定期的に自身の成長や現状の姿を確認する取り組みを実践していく必要がある。 |

| | 短期経営目標 | 具体的な計画 | 評価項目・評価基準 | 最終達成状況 | 評定 | 改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ５<br>年<br>団 | | （２年団）<br>手帳活用やメモをとる指導、及び目標を設定させる指導を通して、計画性や自己管理力を身につけさせるとともに、進路行事等を通して進路意識を高めるよう指導する。 | （２年団）<br>学校評価アンケート　《生徒の社会に適応する力》<br>教員　生徒<br>４年度：94%　92%<br>３年度：92%　89%<br>２年度：74%　87%<br><br>評価基準：Ａ＝90%以上<br>Ｂ＝85%以上<br>Ｃ＝85%未満<br><br>手帳活用度の調査《[活用できた]と答えた生徒》<br>４年度：53%<br>評価基準：Ａ＝50%以上<br>Ｂ＝30%以上<br>Ｃ＝30%未満 | 進路学習での職業体験や求人票の見方などの学習を通して、進路について自分事として考えることのできる生徒が増えている。手帳活用について、５割以上の生徒が肯定的な回答をしている。多くの生徒が行事等でメモを取ることができたようである。行事予定や時間割変更の記入、また定期考査や面談の記録に手帳を活用した生徒もいる。 | A | 手帳の活用について、生徒は高く評価しているが、活用には至っていない生徒も多いと感じられる。また活用していない生徒では「書くことが面倒だった」という意見が多く、手帳の活用やメモを取ることの意義を周知徹底できていなかった。日々の学校生活の中で手帳を使う習慣を身に付けさせる手立てを考え、教員が共通理解し実行していきたい。また、来年度、生徒自身が進路実現に向けて手帳活用やメモを取ることの重要性を理解し実行できるよう具体的な活用例などを示し、生徒の自己管理力の育成を図っていきたい。 |
| | | （３，４年団）<br>社会人として必要な豊かな人間性を育み、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に行動、判断できる力を身につけさせる。 | 学校評価アンケート<br>《各課や年団との連携の強化を図り、学校として統一した指導を行うことで、生徒の社会に適応する力を身につけさせようと努めている。》<br>教員　生徒<br>４年度　94%　92%<br>３年度　92%　89%<br>２年度　74%　87%<br><br>評価基準：Ａ＝90%以上<br>Ｂ＝70%以上<br>Ｃ＝70%未満 | インターンシップ・応募前職場見学を経験し、「社会」というものに触れることができ、新たな価値観を育むことができた。面接練習・履歴書作成においても考え抜く力とともに思考力・判断力・表現力を磨くことができた。こうした進路実現に向けての準備において自分自身と向き合い、受験の経験を通して社会性を身に付け、豊かな人間性・倫理観・創造力・行動力も育むことができた。アンケート結果も教員、生徒94%、保護者96%の肯定的な意見があり、この取り組みを今後もしっかりと磨いていきたい。 | A | 卒業後の様子の報告を受け、振り返りを行う。 |
| ６<br>学<br>校<br>運<br>営 | (1)地域社会や外部機関との連携を通じて、学力のみでなく、コミュニケーション力をはじめとする社会人基礎力の育成を図り、開かれた学校づくりに努める | 地域や校種の異なる学校及び関係機関との交流の中で学校の魅力を発信するとともに、生徒が対話できる場面をつくるよう努める。 | 学校評価アンケート<br>《開かれた学校づくりに努めている》<br>教員　保護者<br>４年度：100%　97%<br>３年度：100%　96%<br>２年度：　96%　94%<br><br>評価基準：Ａ＝95%以上<br>Ｂ＝90%以上<br>Ｃ＝90%未満 | 花の苗贈呈式、清掃ボランティア、箭田を歩こうなど近隣との交流行事はほぼ予定通り実施でき、更に商業科の取組である陵南せんべいの中学校への寄付で今年は生徒も参加できた。これらの取組で本校の魅力発信ができた。校内行事では体育祭や文化祭に加え、今年度はオープンスクールへの生徒の参画を促し、生徒が積極的に取り組む姿を見ることができた。 | A | 校内での行事では生徒が主体となって活躍する場面が設定できているが、校外の行事においても、準備段階から関わりを持たせるなどして主体性を発揮できるようにし、本校の魅力発信、及び生徒のコミュニケーション能力の育成を図りたい。 |
| | | 来訪者にとって分かりやすいホームページについて検討を進め、学校での出来事について速やかに記事の更新を進める。 | ホームページのブログ記事「陵南ニュース」の更新（月ごとの平均回数）<br>４年度：12月までで18回（月平均２回）<br>３年度：年間30回（月平均2.5回）<br><br>評価規準：Ａ＝３回以上<br>Ｂ＝２回以上<br>Ｃ＝２回未満 | 「陵南ニュース」の更新頻度は昨年より減少しているが、2学期後半についてはまとめて更新しており、学校の出来事についての発信は十分にできていると考える。部活動の結果については12月末段階で最新のものになっていないので、早急に更新したい。 | B | ホームページについては外部からの注目度は高いが、校内の教職員が閲覧する機会は少ないと考えている。担当者以外の教職員が閲覧することで必要な更新が分かることもあるので、ニュースの提供だけでなく、閲覧についても呼び掛けたい。 |
| | (2)課長・主任を中心とした協力・協働体制の確立を図るとともに、各課・年団や委員会等の横のつながりを密にすることにより、組織力のある学校づくりに努める。 | 教職員が連携・協働しながら、学校全体のＯＪＴを推進し、従来の業務及び新たな教育課題への対応を年団主任会、課長会議やＯＪＴプロジェクトチームのつながりの中で実践する。<br>分掌組織改編について課長会で議論し、分掌業務の整理を図る。 | 学校評価アンケート《協働体制づくりが進んでいる》<br>教員<br>４年度：　91%<br>３年度：　92%<br>２年度：　87%<br><br>評価基準：Ａ＝95%以上<br>Ｂ＝90%以上<br>Ｃ＝90%未満 | 今年度は新課程の導入や年度前半の生徒指導対応件数の増加により負担感が増した部分があったが、その中で協働して取り組む姿が見られた。また、年団主任会議、わかたけ会議を定期的に開催し情報交換を進めたり、ＯＪＴチームでは研修会の企画や生徒の自己有用感を実感させる提言ができた。分掌組織改編については各課の意見を集約し、現在検討中である。 | B | 毎年人員の入れ替わりが多い現状を踏まえて、各担当者の多くは引継ぎ用のマニュアルを準備しているが、一部出来ていないところもあるので作成するよう促したい。業務内容の把握については実際やってみることに勝るものはないので、各業務について複数で取り組む、複数の目で見る態勢づくりを更に進めたい。 |